



地圏環境工学専攻
三古 展弘

留学先

2000年10月より約1年の予定で、現在、フランス国立ポンゼシヨセ大学の国際経営大学院に留学しております。ポンゼシヨセ大学というとなじみのない方も多いと思いますが、フランスにおいては工学の分野において、ほぼ最高峰のエリート養成機関として知られています。ポンゼシヨセとはフランス語で「橋と道路」を意味し、文字通り工学系の大学なのですが、1988年から経営大学院も設置されており（そのため私の留学している経営大学院のほうはあまり知られていません。）、99年9月に本学工学研究科とポンゼシヨセ大学国際経営大学院との間で交換留学の提携が結ばれました。今回、私を含めて2人の学生が交換留学の第1期生として、名古屋大学から留学しております。

留学条件

通常のMBAは、いったん企業に就職した社会人が、企業の幹部候補生を目指したり、キャリアチェンジを目的として学ぶのが一般的です。そのため、何年かの職務経験が要求され（3年が一般的）、おおよその平均入学年齢は30歳となっています。ただし、今回の名大からの交換留学に関しては、大学との提携ということで、職務経験についての要求は一切なく、TOEFL、GMATと入学願書（application form）の審査のみで入学が許可されました。

学生

学生のほうはポンゼシヨセの方針により、国際性豊かな構成となっています。フランス人学生は意図的に3割以下に抑えられ、今年も約20ヶ国から40人強の学生が学んでいます。そのため授業は総て英語で行われます。ポンゼシヨセの工学系の学部からも、工学とMBAの2つの学位を目指す学生が何人か来ており、私よりも若い学生も何人かいます。このような学生は、職務経験が短く、中にはインターンシップの経験しかない学生も見受けられます。それでも、欧米ではインターンシップが卒業要件になっている大学も多いようで（ポンゼシヨセの工学部の卒業には最低1年のインターンシップが必要だそうです）、総ての学生が何らかの形で職務経験を持っています。

カリキュラム

ポンゼシヨセのカリキュラムは非常にフレキシブルで、ほとんどの授業が選択制となっています。卒業には18単位+フランス語とインターンシップが必要になります。10月から翌年の6月まではパリで講義があり、その後4から6ヶ月のインターンシップに入ります。このため、約1年でMBAの学位を取得することが可能となります。

また、ポンゼシヨセは他大学の先生に多くの講義を依頼しているのも特徴といえます。そのため、ひとつの講義が先生の滞在中に集中して行われます。つまり、マーケティングの授業があるときは、その一週間、朝から晩までマーケティングの講義が行われます。そのほか

にもフランス語の授業などは毎週行われますので、朝9時から夜9時まで講義があるという過密スケジュールになることもあります。

授業はケーススタディやディスカッションなどが活発で、多くの場合、授業への参加（単に出席だけでなく、ディスカッションへの参加）が成績に大きな影響を与えます。この点がMBA においての大きな特徴といえ、日本においてそのようなシステムになじんでいなかった私にとっては大きな課題となりました。そのため、これまでのところ、授業参加の評価に占める割合の高い授業では、あまりよい成績が取れていないのが現実です。それ以外にも試験、個人レポート、グループレポートなどが課され、英語で書かなければならないことなど、多くの点で苦労させられます。

私生活

このような過密スケジュールとなっていることもあり、自由な時間はかなり少なくなります。それでも、クリスマスや学期の間には、ある程度のまとまった時間が出来ます。私の場合、せっかくヨーロッパにきているということで、まとまった休みにはヨーロッパ内を旅行することにしていました。これまでもドイツ、イタリアに旅行しました。

また、休み前やクリスマスの時期には、ほぼ必ずといってよいほどパーティーが企画され、友人宅に集まって飲んだり踊ったりといったことをしています。それ以外にも、大学の友人とも、たまにバーに行ったりします。

実際の日常生活ではフランス語に相当苦労させられます。私の場合、アパートからの水漏れなど隣人とのトラブルも発生したのですが、慣れないフランス語で対応しなければならないのは本当に大変でした。トラブルが発生するたびに、フランス語という壁を嫌というほど実感させられました。

就職活動

MBA に来る学生は多くの場合（企業派遣の人もありますが）、いま持っている仕事を辞めて入学する人が多いですので、就職活動には熱心です。私の場合は交換留学ということで直接の就職活動ではないのですが、インターンシップのために多少なりとも就職活動をしています。しかし、現実はなかなかうまくいきません。フランスの企業にはフランス語を要求され、フランス語超初心者の私には非常に大きな壁となります。日本の企業にも当たるのですが、日本においてはインターンシップという制度そのものがない企業も多く、門前払いになることもたびたびです。

授業料

ボンゼショセのMBA で学ぶには最低でも授業料110,000フランと印刷代7,000フランが必要です。これだけでも約200万円の出費になります。それ以外にも生活費や教科書代がいることを考えるとMBA 留学には相当の出費が伴います。ただし、今回の提携では授業料不徴収の取り決めがなされていたため、名大の授業料（年間50万円弱）のみでの留学が可能となりました。それ以外にも、工学研究科より、奨学金がいただけたため、とても助かりました。

留学について思うこと

留学して思うのは、留学とは決して特別なことではない、ということです。私自身も留学というと、特別な人がすることのように思っていたのですが、実際に自分で留学してみると、それほどでもないという気がします。名古屋大学が提携している大学との交換留学もいくつかありますが、それほど倍率も高くない場合が多く、希望すれば低くない確率で留学できるようです。それ以外にも、語学留学であれば、個人の希望によって、行けるのではないのでしょうか？